

「第1回大田区選抜大会」レポート

大会日程	2020年12月20日（日）
主催	大田区サッカー協会少年部
協力	（公財）大田区スポーツ協会
場所	大田区 昭和島二丁目公園少年サッカー場
参加チーム	全4チーム（大田区選抜A・B、品川区選抜、港区選抜）

■ 大会の概要

大田区サッカー協会少年部では、大田区ジュニア育成地域推進事業の一環として「第1回大田区選抜大会」を新たに立ち上げた。

新型コロナウイルスの影響により様々なサッカー活動が制限されているが、選抜活動は子供たちが選考という課題に対して、他チームのライバルと競い合い、これまでの小学生生活で養った努力の成果を発揮する6年間の集大成の場である。選抜活動のない狭間の世代を作らないことは、将来の子供たちにとって大切なことであると考えている。

感染拡大の防止策を万全に取り、近隣区を中心に全4チームによるリーグ戦方式で選抜大会を少年部で計画した。



■ 第8ブロックトレセン（江東区、品川区、港区、中央区）との連携

第8ブロックトレセンとの連携を図り、各区とのコミュニケーションを有効に取ることで、大田区強化・育成トレーニング（旧トレセン）を活性化させることが可能である。そのための区選抜レベルでの新たな大会を立ち上げ、各区が切磋琢磨してトレセン活動を充実させることで、第8ブロックトレセンの更なるボトムアップ（地域の底上げ）を達成すること出来ると考えている。

■ 大田区選抜セレクションの実施方法

大田区は、トレセンや選抜活動がチームや選手個人への負担とならないこと、また多くの選手にトレセンへの参加機会を設けることを目指している。従って、上位トレセンである第8ブロックトレセンとの重複登録は行っていない。

今回、トーマスカップが7月から1月に変更になったことで、第8ブロック選抜との選考スケジュールを連携、調整して大田区選抜セレクションを実施した。

第8ブロック選抜を見送りになった選手は大田区選抜での選考で受け入れるなど、地域事情を把握し、連携体制を取ることで、選考の狭間で埋もれる選手を作らないことを念頭にセレクションを実施した。



■ 少年部 審判委員会との協力体制

長森少年部審判委員長の働きかけにより、大田区審判部の協力を得て、大田区所属の7名の審判員が大会を担当した。選抜大会を主催することで、子供たちの技術向上を目指すと共に審判活動も前進させ、大田区内チームの審判のレベルアップにも繋げられるように、技術と審判が互いに協力することが大切である。



加藤少年部審判委員（2級審判員）は、次のジュニアユース年代に向けて、大会を通してU12年代の選手がルールを正しく理解し、技術向上を目指すことが重要だと言われていた。大会では、特に「相手を押すなど、手を使ったプレーでのファール」が多く見られた。育成期において安易に手を使うことは、本来必要な身体を正しく当てて相手のプレーを制限し、ボールを奪うなど、将来必要な技術が妨げられると考えられる。

■ 技術面の課題

ゴール前での技術面の不足は明確である。相手ゴール前でのプレッシャーが高い中で、シュートがゴールマウスを大きく外れることが多く見られた。ゴールを観ること・観ておくこと、シュートの質（強さ、コース、タイミング）の向上といった課題が上げられる。そのためには、キックのテクニックの向上を目指すことは重要である。また、日頃より、ゴールを付けたリアリティのあるオーガナイズで反復トレーニングすることが大切であると考えられる。

■ 守備面の課題

守備面での課題は、グループにおけるマークの確認、マークの受け渡しが出来なかったことである。1STDFの決定、ボールホルダーにプレッシャーをかけることは大変良くトライしていた。しかし、2ndDFのオフ・ザ・ボールにおけるボールウォッチングが多く、ボールにチャレンジ出来ずに、相手センターFWにボールを自由に取られることが多く見られた。

DFにおけるマークの原則である、同一視（ボールと相手を同一視する）、正しいポジショニング（ボールへのチャレンジが可能で、背後を取られない）の中で、ボールに強くチャレンジし、ボールを奪う、相手の自由を奪うといったことはまだまだ課題が残った。



大田区選抜Aチームは、2試合で先に失点した。しかし、選手は失点後も下を向かず、自らの強い気持ちと高い技術を発揮し、2試合共に逆転勝利を収めた。

失点はメンタルに影響する。だからこそ、強い気持ちで慌てずプレーできたことは大変評価出来るものであった。

選抜チームは寄せ集めである。そうした環境下でも自分からコミュニケーションを取り、仲間に加わっていくことが重要である。メンタル面やコミュニケーションスキルの高さは、選抜チームで活躍するための必須条件である。

■ 今後について

大田区は少年用サイズ人工芝グラウンドが4面（森ヶ崎3面、昭和島1面）ある。これは東京23区内では大変恵まれたグラウンド環境である。こうしたハード面の良さを生かして、来年度は招待チームを増加させ、選抜大会を拡大していきたいと考えている。



大田区内でこうした選抜大会を開催することは、先に述べた通り、技術・審判活動の向上に繋がる。

また、遠方で行われる都大会などでは難しいが、5年生以下の下級生が選抜大会を見学し、実際のプレーを観る

ことが可能となる。下級生にとって、「大田区選抜に選ばれることで選抜大会に出場できる」という現実的な目標の1つとして、選手に夢を与えることが出来るのではないかと考えている。

ハード面（グラウンド）とソフト面（技術・審判活動等）の双方を共に整えることは、地域グラスルーツ活動の促進に繋がると共に、技術委員会の本来の活動目的である「各選手が所属チームに戻ったときのパフォーマンスの向上に寄与していく」が達成できると考える。今後も、各チームへのリスペクトを忘れず、プレーヤーズファーストの観点で技術活動を漸進させていきたい。

最後に、大切な選手を派遣いただいた各チーム、指導者、選手、保護者のご協力、並びに品川区、港区のご理解により、第1回大会を無事に終えられたことを、この場を借りて厚く感謝申し上げます。

■ 大会結果、表彰

	大田区選抜A	品川区選抜	港区選抜	大田区選抜B	勝ち点	得失点差	順位
大田区選抜A		○ 2-1	○ 6-0	○ 3-1	9	+9	1
品川区選抜	× 1-2		○ 7-1	○ 2-0	6	+7	2
港区選抜	× 0-6	× 1-7		× 0-2	0	-14	4
大田区選抜B	× 1-3	× 0-2	○ 2-0		3	-2	3

優勝	大田区選抜A	最優秀選手	鹿田 陽向（大田区選抜A）	開桜FC
準優勝	品川区選抜	優秀選手（4名）	沖山 旭飛（大田区選抜A）	大田クラブ
第3位	大田区選抜B		星野 翔太（品川区選抜）	
第4位	港区選抜		中村 准大（港区選抜）	
			北 健太郎（大田区選抜B）	大森FC

以上

大田区サッカー協会少年部
技術委員長 廣庭 秀高